



労働組合

# 法人外商新聞

1号

2025年1月23日発行

## 職場懇話会報告

**2024年10月に実施、会社は片桐グループ長をはじめに各部長、組合は梅澤執行委員をはじめに各組合役員が参加しました。会社から2024年度方針（下期版）を説明いただき、質疑応答を行いました。**

Q：スクール構造改革の計画は？

A：三年くらい期間をかけて改革していくが、今年度はその前提となるあるべき姿を描くことから始めているが、MIの考えに賛同いただけるお取引先と組んでいきたいと考えている。

Q：法人外商の科学についての計画は？

A：百貨店の科学は業務改善（人件費率を下げるなど）だが、法人外商の科学は百貨店と違って業務効率であり、具体的には経理作業やコンプライアンス順守の効率化がポイントであり、財務経理や品質管理、経営側とも協議している。一方で今後取り組んでいくべき口座・案件含めやるべき業務の整理など、攻めと守り両面で各部長を中心に取り組んでおり、下期からメンバーも一部実感できるのではと考えている。

<片桐さんより>

☆自ら考えて自分事として業務を進めてほしい、営業部・ユニットの考えを理解した上で自ら「こうしたい」と声を上げてほしい。そうなれば法人外商が主役となれる（片桐さんに直接チャットを送るのも大歓迎）

**組合からはユニット長対象テーマ別VOICEの報告を行い、意見交換を行いました**

2024年度の役割と課題についての主な意見

- ①営業支援については、営業サイドと管理サイド、ユニットにより捉え方に認識のずれがある。
- ②働き方改革については、ユニット・チームごとの予算設定に伴う業務量による一方での付帯業務時間の捻出の難しさ、後方からの更なる支援を求めたい。
- ③新規案件獲得については、後方支援不足、お客さまとの接点構築の難しさ、異動に伴う既存個客との関係性の希薄さ、メイン業務に追われることによりチャレンジできない。
- ④人材育成については、特に新任に対して基本的な法人ビジネス教育を進めていくことが難しい。  
→教育体系は整備中、OJTが出来るような体制を2025年度の組織で検討、機会を作る予定。

<片桐さんより>

☆人は人、自分は自分の風土を変えなくてはいけない。その意味でもVOICEの参加率は重要。

☆営業部長・各所属長とコミュニケーションを取ることの重要性、ユニット長同士でも話し合うことが大事。